

図書館だより

BUNKA GAKUEN LIBRARY

文化学園大学・文化ファッション大学院大学・文化服装学院・文化外国語専門学校
東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL.03-3299-2395 FAX.03-3299-2604

No.172

文化学園図書館

2021年4月5日発行

建築の学びと図書館

建築の授業ではどんな資料・教材が、どのように使われているのでしょうか？

建築・インテリア研究室の先生方に聞いてみました。

集中できる空間づくりのコツについてアドバイスもいただきました。

インタビュー【環境行動学:遊びの観察も教材に】

高橋 正樹 文化学園大学 教授

—改めて、先生の研究分野をお話してください。

一言でいうと「人間と環境のインタラクティブな関係を読み解くこと」です。

何もない広い草原に、青々とした大きな木が1本だけありますよね。そこに、ずうっと歩きどおした人が現れ、その木を見つけたとします。きっとその人は木に向かって歩きますよね。そして木の近くまで行ったらその木を見上げ、さらに近づいて木に寄りかかって、そして木の根元にしゃがみこむでしょうね。そしてホッとするんじゃないですかね。疲れていたからおそらく眠っちゃうでしょうね。そしてひと眠りしたら立ち上がって、木の肌をそっと触ってまた立ち去るでしょうね。

でもどうして人はそのように行動したんですかね。木が無かったら、きっと今のコトは起きなかったと思うんですよね。なぜですかね。よくわかりません(笑)。でも、そういうことがすごく面白いなあ、と思ってずっと研究をしてきました。あえて専門分野名でいうと、環境行動学とか環境行動デザイン学とかいいます。この分野名だけではさっぱり意味不明ですけどね。建築のけの字も、インテリアのイの字も入っていませんから。

—どんな研究をしていらっしゃるんですか？

子どもが生まれてまだ数か月の頃でしたかね。

彼が仰向けになって、手足をバタバタさせていたんです。おまへは虫か？と(笑)。で、ふと、ビデオカメラでもまわしてみようと構えていたら、バタバタしていた手足をピンと空中に伸ばしたんです。その瞬間に、腰を支点にして、クルツときれいな寝返りをしたんです。おおっ！これは面白いと。

じゃあ、次はちょいといじわるして、柔らかい布団の上に仰向けにしてあげました。これだと腰が沈んじゃうから寝返りできないね～、どうする～？って見ていたんです。そしたら、今度は手足を伸ばさず、足の裏と後頭部の2点で布団の上でグ

イッとエビぞりになって、またもやクルッと寝返りをしたんですね。

これはすごい衝撃でした！(笑)。同時に、あっそういうことなのか、と。そこを見ればいいのか、と。研究者になって10年は経っていましたが。

それ以来、子どもと環境に関する研究は、大学院生やゼミ生と一緒にやっています。公園にある遊具の1つに吊り橋ってありますよね。3mくらいの長さのんです。そこを、子どもたちはどうやって渡るか？というのをひたすら観察する研究を以前ゼミ生とやりました。そうしたら、いろんなことがわかりましたよ。一番の発見は、子どもは3歳くらいで加速度的に環境に対する身体の使い方を学んでいくことですかね。私としては身体の使い方を「学ぶ」というよりも、身体が「発見する」という感覚に近いんですけどね。まあ、吊り橋だけのことなので一般化はできませんが、3歳頃って身体を通して環境を理解するうえで大事なのかもとその時に思いました。吊り橋のような不安定な物理的環境が、その子の「発見」能力を引き出しているかもしれないですね。そう思うと、私たちが近代以降に目指してきた、きれいで整った環境って、身体の発見には向いていないかもなあと感じます。



先生が学生時代に最も影響を受けた本
D.A. ノーマン『誰のためのデザイン?』
新曜社 <757.2/N>
初版1990年 増補・改訂版2015年
(写真は増補・改訂版)

—授業の内容について、ご説明いただけますか？

人間環境学C(環境行動)を学科の3年生に講義しています。人間環境学は、A(人間工学)、B(環境心理)、C(環境行動)の3つからなり、大林彦彦監督の尾道三部作ならぬ建築・インテリア学科の人間環境学三部作となっています。AとBは、渡邊秀俊教授が2年生向け(A)、3年生向け(B)に担当されています。おそらく日本の建築系学科の中では、人間環境学に関して最も科目数が多い大学だと思いますよ。

授業内容は、例えば「ペンギンが空を飛ぶ」のキャッチコピーで有名な北海道の旭山動物園を題材にして、どうしてこの動物園が従来の動物園と違い画期的だったのか、どのようにパラダイムをシフトさせたのかということを経験行動学的に読み解く、ということをしています。また、先の赤ちゃんの寝返りビデオも使いますね。子どもの発達と環境というテーマの時ですね。「ただの親バカビデオじゃないからね～」と言いつつ、そうなってしまっているかもしれませんが、学生はわりと暖かく見守ってくれています(笑)。

ミニレポートでは、「子どもの遊びを観察し、遊びの本質を発見せよ」というのも出します。「ああ、子どもが公園で遊んでいるなあ」としか見えなかった学生が、「あっ、こうやって環境を使いこなしていくんだ。遊びつてつねに変化しているんだ」ってところまで気づけるようになります。見方のヒントを教えると、見える世界が変わるようですね。

この授業の目標は、人間環境系の本質とは何か、ということをも学生自身が思考できるようになることなので、あの手この手の方法や事例で、時には私のプライバシーも犠牲ではなく小出しにしながら進めています(笑)。

—どういった本や雑誌を学生に紹介していますか？

『環境心理学-原理と実践(上・下)』〈361.7/G/1,2〉は、自分も翻訳に関ったので紹介しています。古典的名著としては、『環境心理の基礎』〈361.7/K〉『環境心理の応用』〈361.7/K〉が、私が学生時代に最も勉強した本ですがすでに絶版ですね。最近の本では『環境心理学-人間と環境の調和のために』〈361.7/H〉が入門書としてよいと思います。

しかし、私が学生時代に最も影響を受けた本としては、ノーマンの『誰のためのデザイン?』ですね。ここからアフォーダンスという概念を知り、ギブソンの『生態学的視覚論』〈141.21/G〉にはまりました。さらに佐々木正人さんの『アフォーダンス-新しい認知の理論』〈141.51/S〉は、暗記するくらい何回も読み返しました。ここで人間と環境は不可分、全体は部分の総和以上のものである、ということを知り、その後の研究と教育の基礎となりました。

建築系でこの分野の本としては、ジョン・ラングの『建築理論の創造-環境デザインにおける行動科学の役割』〈520.1/L〉とか、高橋鷹志先生の『環境行動のデータファイル』〈520/K〉『環境と行動』〈525.1/S/2〉などがあります。また、ホールの『かくれた次元』〈361.5/H〉は、人類学者の本ですが、建築分野に与えた影響は大きかったですよね。パーソナル

スペースとかの話がでできます。

学会誌としては、EDRAの『Environment and Behavior』や、IAPSの『Environmental Psychology』ですかね。

—どのように学生に紹介していますか？

授業中にさらっと程度ですね。渡邊教授はリストを作られていたと思います。この分野は行動科学系(心理学)の本が多く、建築やインテリアを勉強したい学生にとっては文章ばかりなので(笑)、少しハードルが高いかもしれません。この分野に関係する、よりビジュアルな教材(動画等)があるといいのでしょうか。

—ほかにどんな教材があるといいでしょうか？

人間環境系の画像・映像データ集とかがあるといいですね。このコロナ禍では、公園での遊びの観察もできなかったもので、YouTubeにアップしてある子どもの遊びの映像を視聴してレポートを書く、というのにトライしてみました。

—図書館についてはどのように感じていますか？

デザインをするなら、デザインされたものや図面を見るのが、やはり最も直接的な勉強になるのでしょうか。そのため、図書館に建築系の雑誌のバックナンバーがそろっているのは、とても助かります。各雑誌から、建築を個別に抜き取って、画像と図面がセットになってデータベース化されたら、それは便利でしょうね。大抵、画像や図面と一緒に、設計者のコンセプトや作品解説も詳細に雑誌にのっているのだから、それもセットにデータベース化されているといいですね。

論文を書くなら、日本建築学会と日本都市計画学会、日本インテリア学会の梗概集や論文集のデータベースにアクセスして、先行研究を探ることになると思うので、学生にとってその使い勝手がよいといいでしょうね。

高橋 正樹

文化学園大学 造形学部 教授
千葉大学大学院自然科学研究科
環境科学専攻(博士課程)退学
博士(工学)。一級建築士。



【研究内容】

建築環境心理学、環境行動研究、環境行動デザイン: 広く「建築環境と人間の心理・行動」との関係について研究を行っている。

【著書】

『建築環境工学用教材 環境編』(共著)日本建築学会編著・発行(2011)

『住まいと街をつくるための調査のデザイン-インタビュー/アンケート/心理実験の手引き-』(共著)日本建築学会編、オーム社(2011) 他

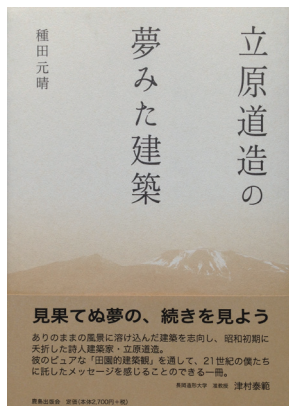
インタビュー【豊かな空間創造のための図書館体験】

種田 元晴 文化学園大学 准教授

—改めて、先生の研究分野をお話してください。

建築のデザインと歴史が専門です。とくに、昭和の時代に活躍した日本の建築家の設計作品に注目しています。

建築は、人々が快適に安全に便利に暮らすための箱ですが、一方で、誰かが構想した芸術的なイメージでもあります。その誰かを「建築家」と考えて、その構想が色濃く表れたスケッチや図面に注目し、建築家はいったい何を体験して、何かから影響を受けて、何を考えて建築をつくっているのかといったことを探っています。例えば、若くして亡くなった戦前の詩人・建築家の立原道造の描いた建築のスケッチと、彼の残した詩の世界観の共通点を探りながら、その作品が生み出された時代に漂った空気感に想いを馳せたりしています。



建築家のスケッチにまつわるドラマをつづった『立原道造の夢みた建築』（単著）鹿島出版会（2016）〈523.1/T〉

—授業の内容について、ご説明いただけますか？

担当している授業は、1、2年生の建築設計に関わる基礎的な実習がメインです。

具体的には、立原道造が構想し、後世の建築家らが建てた「ヒアンスハウス」の図面を手描きで模写しながら、図面の種類や意味、作図の作法やペンの使い方などを学ぶ「設計製図」（1年）、実在する敷地を想定して、心地よく使いやすく豊かな空間をもつ独立住宅を設計する「住まいの設計」（2年）、文化学園の並びにある通路のように細長い代々木二丁目あい公園を敷地に、ここを活性化する空間装置を提案する「デザインスタジオⅡ」（2年）などを担当しています。

—どういった本や雑誌を学生に紹介していますか。

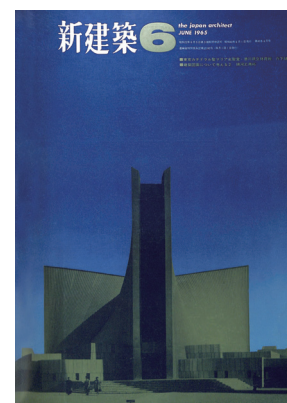
建築設計の課題では、図面の描き方など作法や、建築としての常識的な使われ方などの知識を実践的に習得させることを目指す一方で、豊かな空間がどのようにして成しえるのか、についても理解を深めてもらうことを目的としています。と

はいえ、突然、豊かな空間をこしらえよ、と言われても、大抵の学生は困ります。

美味しいものを食べたことのない人に美味しいものはつくれないように、豊かな空間体験なしには豊かな空間は創造しえないと思います。要するに、豊かな実例を知っていなければなりません。そのために、学生には、まずは建築雑誌をよく参照するように促します。とくに、ロングセラーでメジャーな『新建築』と『新建築住宅特集』をはじめに紹介することが多いです。

本学の図書館では、『新建築』は1965年（創刊1925年）から、『新建築住宅特集』は1988年（創刊1985年）から現在までのものが所蔵されています。

この度、この2誌が閲覧室の手に取りやすいところに配架されたおかげで、学生にとっては、最新の事例だけでなく、様々な時代の豊かな空間の実例へのアクセスが容易になりました。ありがとうございます。



『新建築』1965年6月号（図書館収蔵の最古の年度のもの。表紙の丹下健三設計による「東京カテドラル聖マリア大聖堂」の特徴的な屋根形態から触発される学生は半世紀を経た今も少なくない）



『新建築』2020年9月号（最近刊のもの。公園を活性化する設計課題では、表紙の「MIYASHITA PARK」を実際に訪れたうえで雑誌を見て事例研究をする学生もいた）



『新建築住宅特集』1988年1月号（図書館収蔵の最古の年度のもの。ポストモダン建築の隆盛なこの頃は独創的なカタチの建築事例が豊富）



『新建築住宅特集』2021年2月号の表紙画像（最近刊のもの。平屋の住宅は竹まいが美しいためか繰り返し特集される。ともすれば平面図だけで建築を考えがちな学生に、建築の竹まいの豊かさにとって屋根の形態がいかに重要かを伝えるのに効果的な特集）

——どのように学生に紹介するのですか？

建築設計の実習授業では、毎回一人ずつ個別に学生の案の進捗をチェックします。その際に、学生のスケッチや説明を聞きながら、たぶんこんなことをやりたいんだろうな、と言外の意をくみ取りつつ、ある種の誘導を交えて、過去の優れた建築作品を紹介することがあります。

その場合、まずはインターネットで外観画像を示し、掲載誌の書誌情報などを伝え、図面や設計趣旨などの詳細を作品集や建築雑誌にあたって調べてみることを促します。そうして、図書館に足を運びきっかけをつくりつつ、インターネットで検索するだけでは得られない情報が、本の実物からは得られることを実感してもらえるように努めています。

——どうして実物の資料を使うのですか？

電子辞書が普及した頃によく言われたことですが、電子辞書では紙の辞書に比べて引きたい言葉を効率的かつ短時間に見つけることができる反面、紙の辞書の魅力だった、引きたい言葉と関係のない言葉との偶然の出会いがありませんね。

この点、建築雑誌についても同じことがいえると思います。

調べてみよ、と示した建築と同じ雑誌に載っていた別の建築に感動したとか、あるいは、目的の雑誌の書棚に行くまでの間に目についた全然関係ない本をふと手に取ってみたことから新たな関心が沸き起こったなど、本の実物だけでなく、本の群れが存在する実空間としての図書館を体験することで、豊かな空間を創造する糧を得ることができると考えています。

なお、建築を学ぶうえで最も重要な資料は、じつは本ではなく、建築そのものです。やはり、建築の実物を肌身で感じ取ることで得られる情報はかけがえのないものだと思います。一方で、建築の実物を無邪気に味わっただけでは深い理解には到達しませんから、書物からその設計趣旨などを知ることでも併せて重要です。

——実際の学生の反応はいかがですか？

オンライン授業になったことで、設計案への個別指導の様子をクラスの全員と共有することが可能になりました。そのおかげで、ある学生の案に対して参照を促した名建築の事例から別の学生が触発されるという嬉しいハプニングも起きています。

現代の日本につくる建築設計の課題に対して、古代エジプトの遺跡にまでさかのぼって調べて、これをどうにか応用できないかと考える学生もいました。コロナ禍のためになかなか海外など遠くの建築の実物を体験する機会が持てませんが、それでも、Google Earthなどで現地の状況や素材感をバーチャルに味わいつつ、一方で書物から詳細を理解するというハイブリッドな学びによって、想像力と創造力を鍛えることに、今の学生は努めているようにも見受けます。

——図書館についてはどのように感じていますか？

大学の課題では、建築の実物をつくるというわけにはなかなかいきません。どうしても、図面や模型、CGなどで完成予想図を描いたものが最終提出物となります。そこで重要となるのが、自分の案をいかにわかりやすくビジュアルに説明できるかというスキルを磨くことです。そのためには、例えばA1用紙1枚にどのように図面や言葉をレイアウトすればわかりやすいかといった、グラフィックデザインに関する知識も少なからず必要になります。この点、本学ではグラフィックデザインを学ぶ学生と図書館を共有しているおかげで、図書館を訪ればたくさんの教材に出会うことができます。

また、建築の発想をする際には、過去の名建築からだけでなく、服や彫刻、映画や文学などといった異分野の文化芸術作品からインスピレーションを受けることも重要な手掛かりとなります。その点、美と文化に関する幅広い蔵書を誇る本学の図書館は、工学部で建築を学ぶ学生とは一味ちがった作品を構想することができる機会に恵まれていると思います。

逆に、ファッションを学ぶ学生が建築雑誌から刺激を受けることもきっとあるはずで、建築雑誌が閲覧室に配架され

たことで、学園全体の創作活動がいつそう活発化されることを期待したいと思います。その意味では、ほかの建築雑誌がいずれ追加されると、さらにエキサイティングな閲覧空間となるのでは、と夢想しております。

とはいえ、実空間である図書館には所蔵できる本の数に限りがあることと思います。その点、同じく建築学を追究する近隣の大学の図書館との共同利用が進むと、創造性をいっそう誘発する蔵書空間が構築されていくのではないかと期待しております。

種田 元晴

文化学園大学 造形学部 准教授
法政大学大学院工学研究科
博士後期課程修了(2012)
博士(工学)。一級建築士。



【研究内容】

昭和の時代の建築(=私たちが暮らしている生活環境の土台)をつくりあげた人びとの想いにせまり、これを語り継ぐ活動に取り組んでいます。とくに戦前の詩人・建築家の立原道造の描いた建築図に注目しています。

【著書】

『立原道造の夢みた建築』(単著)鹿島出版会(2016)
『建築のカタチ-3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現』(共著)丸善(2020) 他

ミニアンケート

「集中できる空間、居心地のいい空間を作りだすには？」

オンライン授業により自宅で読書・勉強する機会が増えました。

でも、なかなか集中できない、集中が続かないという人もいるのではないのでしょうか。
というわけで、建築・インテリア研究室の先生方から、何かできる工夫はないか、うかがってみました。

渡邊秀俊先生

【研究テーマ】人間の心理・行動とインテリア環境との相互作用に関する研究

【研究内容】座る環境のデザイン、身体を介在させて認識するインテリア環境

オンライン授業に適した机と椅子について3点お伝えします。①座面と机面の高さの差を差尺といいます。これは座高の1/3程度が適切です。②パソコン作業時には前傾姿勢になるので、座面が後傾している休息用の椅子だと腹部が圧迫されて苦しくなります。③両腕は合わせて10kg程度の重さがあるので、肘掛けがあると肩への筋負担が軽減されて楽です。

横山稔先生

【研究テーマ】五感のデザイン、木造建築継手家具、スモールスペース

【研究内容】オフィスデザイン、マンションリノベーション、車のインテリアデザインなど

特に自宅で集中するには照明環境に留意しましょう。太陽の色や高さも朝昼夕方と変化します。昼は高い位置の照明を強め、夜は低い位置の照明を強くするなど工夫してみてください。スマホでもコントロールできるLED球に変えれば色温度も簡単に調整できますね。

丸茂みゆき先生

【研究テーマ】住まいのインテリアと趣向性について

【研究内容】家を選んだりリフォームする時の背景とインテリアとの関係

集中したい時は始めに体を動かして机上を整える。体が動くことで脳が働くそうです。そしてお気に入りの物を少しだけ置く。物が目に入ると様々な感情が湧くので周りに置くものは集中力に影響があります。私は2020年の4月からお気に入りの赤い物を置いて気分UPさせることを実践中。効果がありそうです。

岩塚一恵先生

【研究テーマ】サウンドスケープデザイン、地域社会とアート・デザインの融和

【研究内容】アート / デザインプロジェクトを通じた持続可能な街づくり

部屋の音環境と光環境に注目してみてください。静かすぎる、あるいは周囲の音が気になる場合は、ごく小さなボリュームでBGMを流すと集中できる事があります。おすすめBGMはメロディや歌詞の抑揚が少ない、環境音やアンビエント・ミュージックです。光は時間帯によって色温度を変えると体内リズムが整いますので、夜は暖色系で照度も落とした方が明日へ集中力を繋ぐ礎になるでしょう。

谷口久美子先生

【研究テーマ】住まい手の生活にフィットする住まい

【研究内容】ライフサイクルに対応する住空間の計画から維持管理まで

講義や説明を聞く時は集中を妨げるものが目や耳に入らないように壁などに向かい、背面も壁か本棚にすると良いです。採光は右利きの人は左斜め前が理想ですが、難しい場合は照明器具を使いましょう。創造的な課題に取り組む時は明るさ優先で窓に向かうなど、作業によって場所やセッティングを変えると気分転換にもなってお勧めです。

浅沼由紀先生

【研究テーマ】高齢になっても住み慣れた地域に住み続けられる住まいとまちの環境について

【研究内容】多世代共生の住まいづくり、「まちの居場所」の形成など

自宅でパソコンに向かう時間が増えています。パソコン画面を見た時、視界に色々なものが入ると気が散ってしまいがちですから、机やパソコンを壁に向けて配置して必要ないものは置かないこと。そしてちょっと体の向きを変えると窓から外の景色を眺めて息抜きができる空間だと集中力もアップします。

曾根里子先生

【研究テーマ】住宅・集合住宅・コミュニティ

【研究内容】住宅の計画、住まい方、コミュニティ形成などに関する研究

気持ちを切り替えて集中する1つの方法は「目に入るものを切り替える」。勉強用の机や椅子が動かせるなら授業時間帯だけ違う向きにする、視線の先の壁や棚に布やパネルをかけて雰囲気を変えるなど、自宅内でもオンオフのモードを分けるとよいです。照明の色を朝～夕方は白系、夕方で降はオレンジ系にするのもおすすめです。

渡邊裕子先生

【研究テーマ・研究内容】長野県須坂市における古民家再生プロジェクト、ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究、国内外の建築意匠や街並みに関する研究

私は、自宅のいろんな場所で読書をします。景色の良い窓辺のソファでは専門書、湯船では建築の最新情報を扱った雑誌、漫画や小説はベッドの中……というように。また、Stay Homeでバルコニー用に購入したベンチも新たな読書スペースに加わりました。最初から決めていた訳ではないのですが、なんとなく読むジャンルや時間によって空間を選んでいるような気がします。

久木章江先生

【研究テーマ】建物や住生活の安全確保に関する研究

【研究内容】地震防災や建物の構造安全性に関する調査や研究

布団の中や湯船の中、庭やベランダ、椅子の下とか机の上など、普段と違う場所で普段と違う姿勢で本を読んだり勉強したり。居心地の良し悪しを色々実験しながら新しい発見ができると感性も磨かれて楽しそうな気がします。家族に迷惑をかけない範囲で色々遊んでみると面白いのではないのでしょうか？

高橋正樹先生

(研究テーマ・研究内容は本誌p1-2参照)

「サードプレイス」という言葉があります。自宅でも大学(職場)でもない第三の居場所のことです。自分にとって心地のよい空間のことをさします。これを自分の家でもあてはめてみます。自分の部屋でもない、リビングでもない場所。おうちの中のいろんな場所で、読書やお茶をしてみても。私のお気に入り、狭いベランダにイスを持ち出してマフラーしながらミルクティーを飲むことです。

種田元晴先生

(研究テーマ・研究内容は本誌p3-5参照)

家にひとりであるよりも、カフェのほうが集中できることがあります。他者の存在を感じることで緊張感が生まれるからでしょう。ソーシャルディスタンスを保ちつつも、しかし孤立しない空間が、良い仕事を生み出すと考えます。

不明な点は下記にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください

TEL:03-3299-2395 [URL] <https://lib.bunka.ac.jp>

twitterとfacebookにて図書館の情報を発信しています

[twitter] <https://twitter.com/bunkalib>

[facebook] <https://www.facebook.com/lib.bunka>